

産地パワーアップ事業

について

実施年度	市町名	対象品目	整備内容	ページ番号
平成 28 年度	三豊市	柑橘	マルチ栽培用資材	2
平成 29 年度	観音寺市	レタス	集出荷貯蔵施設	3

産地パワーアップ事業

【平成28年度補正予算額：57,000百万円】

水田・畑作・野菜・果樹等について、平場・中山間地域など、地域の営農戦略として定めた「産地パワーアップ計画」に基づき、意欲のある農業者等が高収益な作物栽培体系への転換を図るための取組をすべての農作物を対象として総合的に支援。

事業内容

農作業の効率化によるコスト削減や高付加価値な作物へ転換しつつ、実需者のニーズに応じた生産を行うことで、収益力向上に一体的かつ計画的に取り組む産地において、生産体制の強化や集出荷機能の改善に向けた取組をソフト・ハードを一体的に支援。

支援内容

① 支援の対象となる取組

- ① 高収益な作物栽培体系への転換を図る取組に必要な機械や機器のリース導入に要する経費、施設整備に必要な経費、改植時に必要な経費、転換時に必要な資材導入等に要する経費等
- ② ①の取組の効果を増進するための取組計画策定や技術実証に要する経費

② 支援対象者

地域農業再生協議会等が作成する「産地パワーアップ計画」に位置づけられている農業者、農業者団体等

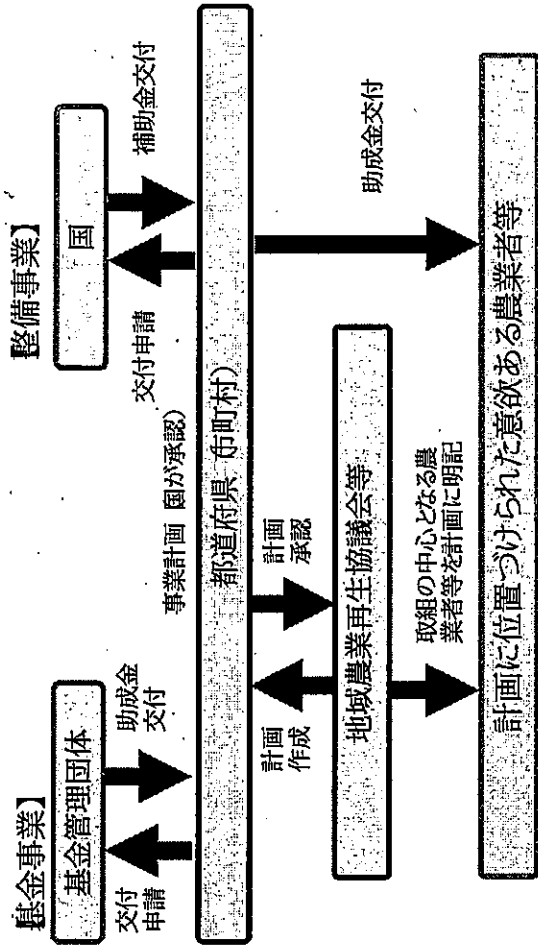
③ 補助率

施設整備は1/2以内、農業機械リース導入は本体価格の1/2以内等

交付先

基金事業は、基金管理団体へ一括して交付します。
整備事業は、都道府県へ交付します。

事業の流れ



効率的・高収益な生産出荷体制を実現！

優先枠の設定

○下記の取組については、優先枠を設けて積極的に支援します。

- 基金事業) ICTやロボット等の先端技術導入 20億円
- 整備事業) 農産物輸出に向けた体制整備 25億円
- 中山間地域の体制整備 50億円

平成28年度産地パワーアップ事業（生産支援事業）実績の概要

市町名	地区名	事業主体（地域協議会）	事業実施期間
三豊市	仁尾地区	ふる一つ物語推進会 (三豊市地域農業再生協議会)	平成28年度

事業計画の概要

（課題）

中山間地域の三豊市仁尾地区は、県内有数のカンキツ産地で、「袋掛け栽培」、「樹成り完熟栽培」などの個性化商材による付加価値販売に取り組んでいる。

この「袋掛け栽培」により生産された果実のうち、糖度や外観など一定の品質基準を満たした高品質な果実は「ふる一つ物語」の商標で京浜市場を中心に出荷され、有利に販売されており、現在では産地を牽引する商品に成長している。

しかしながら、近年は集中豪雨等の極端な天候により、糖度低下や浮皮等が発生し、「袋掛け栽培」の浮皮が少なく、高糖度である特長が薄れるなど、商品力の低下が問題となっており、産地の収益力強化に向けた対策技術の導入が急務となっている。

（事業内容）

以下のとおり、「袋掛け栽培」において、糖度向上や浮皮軽減などの効果が高く、高品質果実の安定生産が可能な「マルチ栽培資材」の導入により、販売額の10%以上の増加を実現する。

施設整備計画

※添付書類：写真

整備内容	受益面積 (ha)	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
マルチ栽培用 資材	3.819	12	4,836,886	2,418,443	マルチ栽培用資材 タイベック巻き上げ等 1.8ha

期待される効果の概要

項目	27年度 (現状値)	28年度 (実績値)	29年度 (実績値)	30年度 (実績値)	30年度 (目標値)	概要
販売額の増加	357,505 円/10a	458,911 円/10a			393,256 円/10a	10a 当たり販売額 の10%増加

○マルチ栽培用資材の導入と設置により、高品質な「袋掛け栽培」の取組が可能となり、有利販売の結果、10a当たりの販売額は順調に増加している。

平成29年度産地パワーアップ事業 計画の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
観音寺市	豊南地区	香川県農業協同組合	平成29年度

事業計画の概要

(課題)

豊南地区大野原集荷場では、レタスの主産地である観音寺市大野原町及び豊浜町から集荷して、JA香川県の約5割を共同出荷している。

平成10年度に選果・包装ラインを整備し、収穫後の出荷調整の作業支援に取り組んできた。近年、農業法人等の担い手によるレタスの作付面積の拡大が進み、出荷のピーク時には、既存の集荷場の処理能力を上回るため、荷受量の制限があり、穫り遅れたレタスの品質低下や圃場廃棄が発生している。

現状の選果・包装ラインは、形状だけにより規格を判別するため、等階級区分に応じた重量判別は人的な補完を要している。また、レタスの包装フィルムに生産者の識別表示ができておらず、実需者までのトレーサビリティが構築されていない。

(事業内容)

集出荷施設を新たに整備し、選果・包装ラインを2ラインから4ラインへ拡充、荷受量に応じた予冷庫を整備する。これにより荷受量の制限がなくなり、ピーク時の穫り遅れの解消による品質の向上や作付面積の拡大が図られる。

あわせて重量選別機能を併せ持った選果・包装ラインに機能強化することにより、等階級の測定精度を向上させ、品質の安定したレタスを出荷することができる。

また、包装フィルムごとに選別調整日や生産者情報を表示することにより、トレーサビリティシステムの構築を図り、さらに金属検出機能を備えることにより、安心・安全性の向上にも取り組む。

施設整備計画

整備内容	受益面積 (ha)	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
野菜 集出荷貯蔵施設	作付面積 206.93 うち 受益面積 42.33	作付戸数 295 うち 受益戸数 34	537,516,000	221,712,000	集出荷施設 1,249.44 m ² 選果・包装ライン 一式 予冷庫 うち 247.36 m ² 荷受・残さ・コンテナ置き場 197.4 m ²

期待される効果の概要

項目	27年度 (現状値)	29年度 (実績値)	30年度 (実績値)	31年度 (目標値)	概要
10a 当たりの販売額	703,813 円/10a			780,499 円/10a	販売額の増加割合を 10.9%増加